

## 2021年度事業実績

(2021年4月1日～2022年3月31日)

次代を担う子ども達の健全な心身の育成に資するため、芸術へのふれあいの場を創出する音楽会の開催、学校図書館の一層の活性化に向けた姫路市内の小学校へ図書寄贈。市内小・中学生を対象に、参加者の健康増進と競技力向上に貢献することで、地域スポーツの振興を図ることを目的とする実業団陸上選手による一日陸上教室の開催、また、生涯学習に係る機会の提供を図るため、文化講演会の開催等、地域文化の振興に寄与することを目的として事業計画を立てた。新型コロナウイルスの感染予防対策を充分に取り、全ての事業を実施することができた。

### 1. 芸術活動の推進及び援助に関する事業

◇◆ ニュー・イヤール・コンサートの主催 ◇◆

①運営費用 871千円

②開催日 2022年1月9日(日)

③開催場所 パルナソスホール

④主催 (公財)山陽特殊製鋼文化振興財団  
姫路市教育委員会

⑤後援 神戸新聞社

⑥実施内容



児童・生徒の皆さんが、音楽活動を通して、豊かな人格形成の一助になることを願い、熱心に音楽活動を続けている市内の小・中学校に対し、本格的音楽ホールで発表の場を提供し、音楽活動を支援すべく、姫路市教育委員会と共催で開催した。

今回で第27回目を迎え、中学生による箏曲演奏で幕を開け、市内の小学校1校と中学校2校、更には姫路市児童合唱団が合唱した他、吹奏楽で市内の中学校1校が合同出演した。また、招待校として市川町立市川中学校が出演した。出場者数は約150名。

今回初の試みで出演した箏曲演奏では、城山中学校が爽やかな琴の音を披露し、合唱演奏校は、「エール」、「115万キロのフィルム」、「たましいのスケジュール」など、各校とも新型コロナを吹き飛ばすべく、力強い歌声で2曲ずつ披露した。吹奏楽では大津中学校が、宮川成治編曲による「J-POP ベストヒットスペシャルメドレー」を軽快に演奏した。

招待校の市川町立市川中学校音楽総合部は唱歌「冬の星座」と、「葡萄と風と赤とんぼ」を情感たっぷりに聞かせた。

また、模範演奏として、矢野仁美さんのピアノ伴奏で、テノールの岡成秀樹さんによる「オペラ『ウェルテル』より 春風よ、なぜ私を目覚めますのか」、ソプラノの田中里奈さんによる「オペラ『つばめ』より ドレッタの夢」の独唱と二人による二重唱「オペラ『友人フリッツ』より さくらんぼの二重唱」が披露された。

## 2. スポーツ活動の推進及び援助に関する事業

### ◇◆ 実業団陸上競技部による陸上教室の主催 ◇◆

- ①運営費用 577千円
- ②開催日 2022年3月29日(火)
- ③開催場所 MIYACOCO みなとドーム
- ④主催 (公財)山陽特殊製鋼文化振興財団
- ⑤共催 姫路市
- ⑥後援 神戸新聞
- ⑦実施内容



姫路市内の小学校4年生から中学校3年生を対象とする「実業団陸上選手による一日陸上教室」を開催し、参加者の健康増進と競技力向上に貢献することで、地域スポーツの振興を図ることを目的とするもので、今回が第5回目の開催となり、小学生男女125名(前々年度は103名)が参加した。

教室では、山陽特殊製鋼陸上競技部の現役選手から、ストレッチから走り方のコツなど、5種類のワークアウトレッスンを受け、最後に、参加した子どもたち全員が10チームに分かれて、1周約600mのミニ駅伝を行い、子どもたちの懸命な走りで会場は大いに盛り上がった。

## 3. 文化の普及及び啓発に関する事業

### ◇◆ 市内小学校へ図書への寄贈 ◇◆

- ①寄贈内容 438冊 717千円(目録代含む)
- ②寄贈先 27校(別紙ご参照)
- ③寄贈時期 2021年10月
- ④実施内容



子どもたちが本を通じて多くの知識を吸収し、豊かな人間性を身に付け、将来の人間形成の礎となる場を提供すべく、子どもたちにとっての一番身近な図書館である学校図書館の一層の活性化に向け、姫路市内の小学校に希望図書を寄贈するもので、寄贈校27校を代表し、当財団理事長から、別所小・山下<sup>やました</sup>ゆうこ校長に対し、11/15(月)に寄贈図書の目録贈呈を行った。

- ⑤閲覧状況 寄贈図書活用状況報告書(別紙“別所小学校”提出分ご参照)

◇◆ 文化講演会の主催 ◇◆

- ①運営費用 973 千円
- ②開催時期 2021 年 10 月 13 日（水）
- ③開催場所 姫路市文化センター大ホール
- ④開催内容

◎演題 『地形から見る日本文明—日本文明の謎を解く』

◎講師 たけむらこうたろう 竹村公太郎 氏

（日本水フォーラム代表理事 工学博士）



⑤実施内容

講演会には平日の昼間にもかかわらず、四百名弱の方々が参加され、盛会裡に開催することができた。

演題『地形から見る日本文明—日本文明の謎を解く』は、日本文明の発生と変遷を地政学的に分析・解析し、「なるほど、、、」と納得させられる内容で、大変興味深い講演だった。

九州に渡来した大陸の人々による吉野ケ里遺跡から、神武天皇の東方への遡上により、奈良の地に日本最初の文明が発生し、その地形と河川、周辺の森林等の環境の変化の為、その文明が桓武天皇の遷都によって平安の都となった京都へ移り、その地で千年続く公家文化へと繋がり、更には戦国の世を経て徳川家康によって開かれた江戸幕府は京都ではなく江戸（所謂 関東平野）にその都を置くことで、その武家文化を華開かせた条件など、其々の時代における其々の地形と河川と森林が織りなす自然のインフラが日本文明の発展と衰退そして変遷を創ってきたことが、まるでその時代にタイムスリップしたように頭の中で具体的な映像として想像することが出来た。また、歌舞伎や映画・小説等、日本人にとって大晦日の風物詩でもある忠臣蔵の異説は播州人にとっては特に興味をもって聴くことができた。